

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

## 2 中期的目標

## 1 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 多様性を認める人間関係をはぐくむ活動の充実を図る。

- ア 誰もが個性や趣向を肯定され、安心して学校生活が送れる居場所としての集団づくりを進める。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※探究ナビや人権HRのさらなる充実を図ることで、学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答率（R2：84.1%、R3：85.5%、R4：85.3%）を令和7年度も80%以上を維持する。

(2) 安全で安心な学びの場とするための環境整備を行う。

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。
- エ 中学校等との連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※情報共有を密にするなど、きめ細かな相談支援体制をさらに充実させることで、学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答（R2：67.5%、R3：74.6%、R4：72.6%）を前年度比で増加させ、令和7年度には75%以上にする。

※保護者のニーズを踏まえた情報発信を行い、学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答（R2：67.9%、R3：70.4%、R4：76.3%）を前年度比で増加させ、令和7年度には75%以上を維持する。

## 2 確かな学力の育成と授業改善（教育力向上と進路実現）

(1) 教育センターと一体となった教育実践の研究

- ア 電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- ウ 授業研究やカリキュラムマネジメントにおけるアドバイザーとして教育センターのリソースを活用する。

※上記アイウに関する校内研修において、教育センターの指導主事から指導助言を得るなど協働で取り組み、研究を重ねる。

※授業公開週間をさらに充実させ、公開研究授業及び研究討議を複数回実施し、その成果を発信する。

(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組みとその成果の発信

- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
- イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
- ウ 読解力の育成・充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」（R2：63.5%、R3：71.4%、R4：68.6%）を前年度比で増加させ、令和7年度には70%以上をめざす。

(3) あくなき探究心の育成

- ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。そして、探究ナビ発表大会を実施し、探究活動の充実とその成果を発信する。
- イ 全教科において、「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（R2：63.5%、R3：81.6%、R4：80.0%）を前年度比で増加させ、令和7年度には80%以上を維持する。

- ウ 進路指導を充実させる中で、自ら学ぶ生徒を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）で「将来の進路や生き方について考える機会がある」（R2：80.8%、R3：89.0%、R4：86.6%）を、令和7年度以降も80%以上を維持する。

※3年間を見通した進路指導を着実に実行することにより、4年制大学・短期大学の進学者率上げ、令和7年度には併せて150名以上とする。

- (R2：132名、R3：150名、R4：141名)

※令和4年度、「探究図書館を創ろう！」が学校経営推進費支援校に決定。評価指標として、図書館の来館者数を400名以上（R3：305、R4：355）利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して探究活動を進めることができた」（新設）肯定率80%以上。大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。

- 書籍397冊(520,268円)、備品として、ワークテーブル、チェア、ホワイトボード、書架、カーペット他(1,657,000円)、大学教員からのコンサルテーション(50,000円)など、事業費総額 2,370,268円

## 3 「チーム教セン」による新しい課題への挑戦（支え合い高め合う組織の実現）

(1) 広報活動の充実と地域に開かれた学校をめざす。

- ア 近隣の中学校約50校を訪問するとともに、ホームページ等を活用した広報活動を充実させる。（R3：50校、R4：53校）
- イ 近隣中学校との交流を推進し、中高教員相互の授業力の向上に繋げる。

- (2) 生徒の自主的な活動を充実させる  
 ア 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等の行事を充実させる。
- (3) 校務の効率化と働き方改革の推進  
 ア 全校一斉退庁日及びノークラブデーの活用をさらに促進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。  
 イ 超過勤務時間が月80時間を超える教職員を年間で、20名以下をめざす。(R2:51名、R3:33名、R4:28名)  
 ウ タブレットの活用によりペーパーレス化を推進することで職員会議等の時間短縮をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目 * → 上段(R4)、下段(R5)の問いの表現 *文頭の番号は質問番号に相当  (24)図書館を利用して本を読んだり、友達と話を(探究活動を含む)ができた。(R5新設 59.9%)  (9)みずから進んで自分がリーダーの役割を引き受けることがある。  →チームの中で必要とされている役割を積極的に引き受けることがある。(37.6→72.1) +34.5%  (12)授業では、実験・観察・実習をしたりすることがよくある。  →講義室、実習教室、探究図書館等、HR 教室以外で探究的な教育活動が行われている。  (49.6→80.2 +30.6%)</p> <p>○肯定的評価が低下した主な項目  (3)自分のことで自信を持っていることがある。  →自分のことで誇れるところがある。(62.9→58.7) -4.2  (14)コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある。  →タブレットやプロジェクタなどのICT 機器が教育活動全般で効果的に活用されている。  (90.8→87.1) -3.7</p> <p><b>【保護者】</b></p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目  (2)子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。  →子どもは、授業がわかりやすいと感じているようだ。(60.9→73.6) +12.7%  (17)この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。(57.8→65.7) +7.9%  (14)学校の行事は、活発に行われている。  →校外学習や体育大会、文化祭などの学校行事に楽しそうに参加している。(80.0→86.8) +6.8%</p> <p>○肯定的評価が低下した主な項目  (15)学校の部活動は、活発に行われている。(82.4→79.0) -3.4%  (3)学校は、保護者の願いや期待にこたえようと努力している。  →学校は、保護者の願いや期待にこたえよう常に改善を行おうとしている。(79.9→77.7) -2.2%</p> <p><b>【教職員】</b></p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目  (10)個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理は厳正になされている。  (87.8→97.4) +9.6%  (18)校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている。  (77.6→81.6) +4%</p> <p>○肯定的評価が低下した主な項目  (2)教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(95.9→78.9) -17.0%  (9)生徒に関する情報などを共有する機会があり、共通理解が得られている。  (100→89.5) -10.5%  (16)近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたりした取り組みをすすめている (75.5→65.8) -9.7%</p> <p><b>【総括】</b>  令和5年度の生徒のアンケート結果において、質問 24 項目のうち 22 項目において肯定的な回答を得たことは、教職員の努力の成果と考える。肯定的な回答が低下した 2 項目の内、「タブレットやプロジェクタなどのICT 機器が教育活動全般で効果的に活用されている。」では、元々高い肯定率(90.8→87.1)からの低下であり、教員アンケートの「ICT 機器を教育活動全般で効果的に活用している。(新規)」94.7%の高い数字から、ほぼすべての教員が授業中に電子黒板を使用していることがわかる。また、「チームの中で必要とされている役割を積極的に引き受けることがある。」の肯定率の向上においては、本校の教育の柱である「探究ナビ」の授業の取り組みが貢献しており、今後とも、生徒の自己肯定率を上げる工夫をしていきたい。教職員においては、全教員で分担して中学校訪問を行うなど広報活動を積極的に行っているが、「近隣の学校等との交流の機会を設ける等、地域との繋がりを大切にしたりした取り組みを進めている」の結果は、校務多忙が原因の一つかと思うが、肯定率は 65.8%にとどまっている。しかし地域を大切にしたりした教育活動を進めることは、本校で学びたい生徒数を増やすためには必要なことと考えるため、次年度は何らかの交流の機会を設けたい。保護者の意見では、先生方に感謝の意を表す意見が多い中で、さらにわかりやすい授業を求めるとの授業改善の要求や、老朽化している学校施設、設備の改善を求めるとの声が相変わらず多い。アンケートの意見を参考にしながら、変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校を、全教職員が一致団結して作っていきたい。</p>	<p><b>○第1回(令和5年6月19日)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度学校経営計画の中期目標については毎年変更するものではないので、記載の通り着実に進めていただければと思う。</li> <li>センター附属で「探究ナビ」をはじめとして、全教科において大切にしている人間力育成の成果として、多くの卒業生で「社会人基礎力」がある生徒が多いと思う。</li> <li>全校一斉退庁日の設定、遅刻欠席連絡のICT化等、働き方改革について実施については中学校でもぜひ参考にさせていただきたい。</li> <li>チャレンジボードの設置は、素晴らしい試みである。いろいろなことに挑戦する機会を示すことはいいことである。</li> <li>家庭学習のあり方については難しい課題であるが、興味、関心を高める授業をしていただくことで家庭学習時間は増えると思う。</li> <li>地域の教育資源をより活用(交流)してほしい。お互いに得るものは大きい。</li> <li>Chat GPT など新たな技術が出てくる中の教育のあり方についてはしっかりと考えていく必要がある。</li> </ul> <p><b>○第2回(令和5年11月14日)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究と生徒の学力向上の関係性についてはどう考えているか。</li> <li>授業デザインシートを改訂したことで、教職員の負担感はどうか。</li> <li>授業デザインシートを生徒に見せたり、活用したりしているのか。</li> <li>生徒の学ぶ意欲の向上とのつながりはどうなのか。</li> <li>この取り組みを続けることで、確実に授業力があがる。</li> <li>横文字が多く、本校の取り組みの意義が保護者にうまく伝わらないこともある。(リスペクト→尊重 等)</li> </ul> <p><b>○第3回(令和6年2月19日)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分のことで誇れることがある」という文言が答えにくい可能性がある。自信というところまで生徒が思えないのではないか。</li> <li>アンケートの分析は、経年変化を取ると3年間の成長がわかるのではないか。</li> <li>地域とのつながりを大切にしたりした取り組みを一層進めてほしい。</li> <li>防災の取り組み等を通じて、高校生と地域の交流を深めてほしい。</li> <li>校則が厳しいという指摘もあるが問題はないと感じる。社会に出れば当たり前のことだと思う。</li> <li>ポートフォリオは、十分に活用できていないが、本校ではクローバープランとしてキャリア教育を実施している。</li> <li>探究発表会を観覧し、発表する生徒だけでなく、聴く生徒もとても素晴らしかった。</li> <li>生徒自身で学びをデザインすることは元より、プロデュースできるようにしてほしい。</li> <li>自己肯定感を高める教育活動はできていると感じるが、生徒自身に気づいてもらう必要がある。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 豊か たたく ま しい 人 間 性 の は ぐ く み	<p>(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア)居場所としての集団づくり</p> <p>イ) 課題の早期発見</p> <p>ウ) 情報リテラシーの育成</p> <p>(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア)危険予知及び緊急事態への対応能力の向上</p> <p>イ) 相談できる環境の整備</p> <p>ウ) いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団</p> <p>エ)教育相談体制及びガイダンス機能の充実</p>	<p>(1)多様性を認める人間関係のはぐくみ ア) より良い人間関係の構築をめざし、クラス作りの導入となる活動を全教員が指導できるようにするための「クラス開き研修」を全教員参加で年度当初に実施する。また、授業研究委員会を中心に授業改善を行い、授業等において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。 イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会、教育相談委員会、教育支援委員会を週1回開催し、情報を密に共有し、課題が深刻化しないように努める。 ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行い、情報リテラシーを高める。</p> <p>(2)安全で安心な学校生活のための環境整備 ア) 現実的な災害を想定した訓練の実施や、感染症拡大による臨時休校等の緊急事態に備え、連絡及び教育的な支援体制(ICTの活用)を整える。 イ) ゆるりすとルーム(何でも相談室)を毎日休みに開設と教科の準備室や職員室付近に机や椅子を設置し、気軽に質問や相談ができる場を拡充する。 ウ) アンケート等を効果的に活用し、課題把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。 エ) 相談しやすい体制づくりを進めるとともに、ゆるりすとルームの開設案内のプリントを月1回発行する。また、人権教育の校内研修の中で、相談体制を充実させるための内容を組み入れ、教員の指導力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア) ①学校教育自己診断(生徒7)で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率80%以上を維持する。[85.3%] ②学校教育自己診断(生徒13)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が前年度を上回る。[80.0%] イ) 学校教育自己診断(生徒16)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率73%以上[72.6%] ウ) 人権教育委員会からSNS関連に係る注意喚起等の啓発活動を定期的に行うことで、SNS等、ネット上での課題事象[6件]の減少に努める。併せて、課題事象発生時の適切な対応についての校内研修を複数回行う。 ア) 学校教育自己診断(生徒22)で「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率80%以上[77.9%] イ) 学校教育自己診断(生徒5)で「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率71%以上[70.1%] ウ) 学校教育自己診断(教職員3)で「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」の肯定率90%以上を維持する。[100%] エ) ①学校教育自己診断(保護者9)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定率75%以上を維持する。[76.3%] ②学校教育自己診断(生徒18)で「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率80%以上をめざす。[77.0%]</p>	<p>(1) ア) ①クラス開きの校内研修実施(4/5)「クラスには自分の居場所がある」の肯定率85.8%(◎) ②「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率84.6%(◎) 次年度は、全教科において授業内容の研究・さらなる改善に取り組む。 イ) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率80.4%(◎) 引き続き、教育相談の広報を充実させるなど相談しやすい環境を作る。 ウ) SNS等、ネット上での課題事象は5件発生。SNS対応に特化した校内研修を実施するとともに、全教科において、情報リテラシー教育をより強力に実施する。(○) ア) 「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率82.6% 次年度は、関係するポスターの掲示や情報発信をさらに活発に行う。(○) イ) 「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率72.1%(○) 次年度も教育相談体制をより充実させ情報共有を密にする。 ウ) いじめが起こった際の体制の肯定率94.7%で目標達成。引き続き、未然防止、早期発見、早期対応の重要性の共通認識を深める。(○) エ) ①「生徒をきめ細かく、多面的にサポート」肯定率78.4%(◎) ②「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」肯定率83.1%(◎) 引き続き、生徒に教育相談を広報し相談しやすい環境を整え肯定率の向上を図りたい。</p>

<p>2 確かな学力の育成と授業改善・教育力向上と進路実現</p>	<p>(1)教育センターと一体となった教育実践の研究</p> <p>ア)電子黒板と1人1台端末を活用した授業についての研究・実践</p> <p>イ)観点別学習状況評価についてのさらなる研究・実践</p> <p>ウ)教育センターのリソースの活用</p> <p>(2)基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み</p> <p>ア)知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>イ)学びを活かそうとする意欲の向上</p> <p>ウ)読解力の育成・充実</p> <p>(3)あくなき探究心の育成</p> <p>ア)探究活動の充実と再構築</p> <p>イ)「社会人基礎力」の育成</p> <p>ウ)自ら学ぶ生徒の育成と希望進路の実現</p>	<p>(1)校内研修や教科会議に指導主事に参加してもらい、一体となった授業研究や授業実践を行う</p> <p>ア)電子黒板と1人1台端末の環境の下での授業について、授業研究委員会を中心に実践研究を進める。</p> <p>イ)観点別学習状況評価の本格実施にあたり、本校の状況に合わせた評価指針を充実させる。</p> <p>ウ)教育センター大ホールを授業の成果発表の機会として活用したり、授業に関するアドバイザーとして指導主事を活用する。</p> <p>(2)基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取り組み</p> <p>ア)授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。</p> <p>イ)授業研究委員会(各教科から1名選出)を中心に、学校としてつきたい力、各教科でつきたい力、課題等を洗い出し、全教員で共有しながら学校全体としての授業力の改善と向上を図る。</p> <p>ウ)すべての教科で、読解力の育成をめざした取り組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、新たに設立した探究図書館を、生徒自らが個別最適な学びや協働的な学びをデザインする学習活動を展開する場とする。</p> <p>(3)あくなき探究心の育成</p> <p>ア)本校教育活動の軸と位置付けている探究ナビをはじめとする探究活動を充実させ、その成果を発信するとともに、3年間を見通した指導計画をさらに充実させる。</p> <p>イ)全教科で「社会人基礎力」(実社会で必要かつ役立つ力)の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。</p> <p>ウ)自ら学ぶ生徒を育成する。授業以外での学習習慣をつけさせるとともに、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。また、一人ひとりの希望進路を実現するため、将来を見据えた科目選択を含む教育課程を編成するとともに、系統的な進路講習等の個別の支援を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア)学校教育自己診断(生徒14)で「コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある」の肯定率90%以上を維持する。[90.8%]</p> <p>イ)各教科における課題を洗い出し、情報共有を行い、課題解決に向けての校内研修を複数回実施する。</p> <p>ウ)月1回教育センターと会議。合同での校内研修を3回実施し、指導主事からのアドバイスや情報提供を受ける。</p> <p>(2)</p> <p>ア)①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。の全平均が、前年比を維持する。[3.14]</p> <p>②授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を維持する。[3.18]</p> <p>イ)学校教育自己診断(生徒10-11)で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率70%以上[68.6%]、「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率63%以上[62.5%]</p> <p>ウ)図書室の利用者数(授業での利用を除く)を前年度より増加させる。[400人]学校教育自己診断(生徒24)で、「図書館を利用して本を読んだり友達と話したりすること(探究活動を含む)ができた」(新設)肯定率80%以上</p> <p>(3)</p> <p>ア)学校教育自己診断(保護者11)で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率80%以上を維持する[82.3%]</p> <p>イ)学校教育自己診断(生徒15)で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率80%以上を維持する[86.6%]</p> <p>ウ)①英語検定、数学検定の受験者数を前年度を上回る。[英検55名、数検11名受験]</p> <p>②1年からの系統的な進路HRを実施(年間3回以上)及び系統的な進学講習の開催(長期休業期間合計4回)することで、各進学先の合格者数を前年比で上回る。</p> <p>*R5延べ合格者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年制大学 [286]名</li> <li>・短期大学 [16]名</li> <li>・専門学校 [49]名</li> <li>・就職内定者 [13]名</li> <li>・公務員 [5]名</li> </ul>	<p>ア)「コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある」の肯定率87.1%(△)ICT機器の効果的な使用に関する校内研修未実施</p> <p>イ)授業研究委員会が校内研修を3回実施。(◎)</p> <p>ウ)教育C幹部との定例の会議7回、指導主事との合同校内研修3回実施。今後も教育Cとの連携を推進していく。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア)①「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。[3.17](◎)</p> <p>②「知識や技能が身に付いたと感じる」[3.22](◎)引き続き、授業研究委員会をさらに充実させ、授業研究、改善に取り組む。</p> <p>イ)教え方に工夫をしてくれる先生が多い」78.7%(○)「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」72.4%(◎)今年度は、授業公開週間を2回。次年度はさらに回数を増やすなど充実させる。</p> <p>ウ)図書室の利用者数[1504人]貸出数(471冊→1032冊)と大幅に増加したが肯定率は59.9%(△)今後は、昼休みの放送、月ごとの図書館だよりの発行、図書館イベントなどの広報を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」86.3%で目標達成。(◎)</p> <p>イ)「将来の進路や生き方について考える機会がある」87.6%(○)探究ナビやGSの授業を通して、考える機会をさらに与える。</p> <p>ウ)①英検、数検受験者数[英検59名、数検5名受験](○)</p> <p>②進路HR 1年6回、2年9回、3年14回(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だより 1年5回、2年11回、3年12回</li> <li>・科目選択説明会(各学年2回実施)</li> <li>・進路別説明会(各学年2回実施)</li> </ul> <p>*3/1延べ合格者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年制大学合格者224名</li> <li>・短期大学合格者20名</li> <li>・専門学校合格者55名</li> <li>・就職内定者12名</li> <li>・公務員2名</li> </ul>
---------------------------------------	---	--	---	--

3 チ ー ム 教 セ ン に よ る 新 し い 課 題 へ の 挑 戦	<p>(1) 広報活動の充実 ア) 地域に開かれた学校</p> <p>イ) 近隣中学校との交流</p> <p>(2) 生徒の自主活動の充実 ア) 生徒会活動の活性化</p> <p>イ) 校内美化運動の充実</p> <p>(3) 校務の効率化と働き方改革の推進</p> <p>ア) 教職員の意識改革</p> <p>イ) 校務の効率化</p>	<p>(1) 広報活動の充実 ア) 広報委員活動を活性化させ、学校説明会、体験入学会、ホームページ等を活用した広報活動のさらなる充実を図る。</p> <p>イ) 近隣中学校を全教員で分担し訪問、広報するとともに、本校の授業公開週間の開催を近隣中学校へ広報することで交流を図る。</p> <p>(2) 生徒の自主活動の充実 ア) 生徒会を中心に、生徒が主体的に行う体育大会、文化祭等などの行事と部活動を充実させるために、生徒会活動や部活動の活動の様子や戦績の広報を充実させ、意欲の向上を図る。</p> <p>イ) 保健委員を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除等を徹底し美化運動を充実させる。</p> <p>(3) 「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。</p> <p>ア) 全校一斉定時退庁日及びノークラブデーの周知徹底を図るとともに、管理職による指導、助言を適宜行う。</p> <p>イ)</p> <p>① 部活動における複数顧問等による役割分担。</p> <p>② 終了時間を定めた会議の運営により、校務の効率化を図る。</p> <p>③ 職員会議等の会議時間を短縮するために、タブレットを使用することで、書類の電子化(ペーパーレス)をさらに推進する</p> <p>④ 出欠連絡、アンケート等において、さらに ICT を活用し、業務の軽減を図る。</p>	<p>(1) ア) 近隣中学校 50 校を全教員で分担し訪問することで、学校説明会への参加人数を増やす。[第1回 150、第2回 320、第3回 190] 計 660 名</p> <p>イ) 学校教育自己診断(教職員 16)で「近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたり、地元とのつながりを大切にしたり、地元とのつながりを大切にしたり、地元とのつながりを大切にしたり」の肯定率 70%以上をめざす。[75.5%]</p> <p>(2) ア) 学校教育自己診断(生徒 19・20)で「学校行事は充実して楽しい」の肯定率 75%以上[72.6%]、「この学校には、魅力ある部活動がある」の肯定率 71%以上[70.1%]</p> <p>イ) HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を充実させる。毎週 1 回保健委員が各教室の清掃状態を点検し、評価指標に基づいて、点数化することで意識を高める。年度末には、学年別に優秀クラスを表彰。</p> <p>(3) ア) 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員を年間で 28 名以下とする。</p> <p>イ)</p> <p>① ストレスチェックにおける健康指数を前年度より下回る。[R4:94]</p> <p>② 学校教育自己診断(教職員 8)で「校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている」の肯定率 80%以上 [77.6%]</p>	<p>(1) ア) 近隣中学校 50 校訪問 (○) 学校説明会への参加人数 (△) [第1回 206、第2回 228、第3回 180] 計 614 名</p> <p>イ) 学校教育自己診断(教職員)で「近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたり、地元とのつながりを大切にしたり」の肯定率 65.8% (△)</p> <p>(2) ア) 学校教育自己診断(生徒)で「学校行事は充実して楽しい」の肯定率 76.3%(○) 「この学校には、魅力ある部活動がある」の肯定率 74.5% (◎)</p> <p>イ) 美化運動を定期的実施できたことで、学習環境が整備された。(○)</p> <p>(3) ア) 超過勤務時間が月 80 時間を超える教職員 11 名。(実 5 名) (◎)</p> <p>イ)</p> <p>① ストレスチェックにおける健康指数 [R5: 93] (○)</p> <p>② 「校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている」の肯定率 81.6% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校一斉定時退庁日を原則、毎週水曜に設定。</li> <li>・ 欠席、遅刻連絡を ICT で実施。</li> <li>・ 時間外の外線電話受付中止。</li> <li>・ 会議資料のペーパーレス化で、平均して職員会議時間が平均 30 分短縮実現</li> <li>・ 伝達事項のオンライン共有 (学習支援クラウドサービス、ライデンメール)</li> <li>・ ICT 環境の整備 (首席管理)</li> <li>・ アンケートの電子化及び保護者へ文書配布のデジタル化 (学習支援クラウドサービス 生徒、保護者)</li> <li>・ 会議場所の予約 S の電子化</li> </ul>
---	---	--	---	--